

II 子ども読書活動推進のための様々な取組

実践① さみどり幼稚園

1 はじめに

本園は今年創立 74 年を迎えた学校法人の幼稚園である。近くには西田小学校や城西中学校、鶴丸高校、鹿児島高校などがあり「文教地区」と称される豊かな環境の中に位置している。

令和 3 年 1 月現在の園児数は、園児 290 名、教職教員 35 名である。子供たちは毎日生き生きと意欲に満ちて活動し、のびのびと幼稚園生活を楽しんでいる。

2 教育目標

「いきいきとすこやかな体と のびのびと広い心を持ち 自分でよく考え 自分から進んで行動しようとする 子どもを育てる」を教育目標とし、自発的・主体的活動重視の総合的・全人的教育を推進している。

3 読書指導について

教育目標の具現化に向けた教育課程を作り、読書指導については 5 領域の一つである「言葉」の領域の中に位置付け、「絵本や物語に親しみ想像力を広げ、音楽の美しさに関心をもつ」ことをねらいとし、発達段階に即した内容を次のように示し、読書活動の充実に向けた取組をしている。

- (1) 満 3 歳到達児 ○絵本に親しみ、興味を持って聞く。
- (2) 年少(3 歳児) ○絵本や物語に興味を持って親しみ、豊かに想像する。
- (3) 年中(4 歳児) ○絵本や物語に親しみ、話の筋や表現の面白さに興味を持ち、豊かに想像する。
- (4) 年長(5 歳児) ○絵本や物語の内容を豊かに想像し、話の筋や表現の面白さ、言葉の美しさなどに気付く。

4 日課表に位置付けた読み聞かせの活動

- (1) さみどり幼稚園での読書活動の根っこの部分になっている活動が「一日一話」の取組である。

- 13 時 10 分～13 時 30 分までの 20 分間を「一日一話」の時間として、幼稚園生活の中に位置付け、読書への興味・関心を高めさせる時間としている。
- 内容は、絵本や紙芝居、エプロンシアター等を用いての読み聞かせや民話等の語り聞かせである。
- 教師は、毎日の終礼時に翌日の読み聞かせをする題材のねらいや内容を確認し合い充実した読み聞かせが出来るように意識を高めている。



【「一日一話」の読み聞かせの様子】

(2) その他の読み聞かせの活動について

「一日一話」とは別に、次のような読書活動を年間行事の中に位置付けている。

ア 「子ども読書の日」の集会

4月23日の「子ども読書の日」に合わせて園全体で読書の集会を行い、読書活動を通して物語に親しみ、感じたり、考えたり、イメージを広げたりして豊かな心を培う。

イ 「楽しいお話」の集会（年3回）

- ・鹿児島県童話会の先生を招聘し、鹿児島に昔から伝わる民話等を鹿児島の方で話してもらう。
- ・外部の講師を招聘し音楽を通して読み聞かみや語り聞かせをしてもらう。
- ・プロの劇団を園に招き、迫力のある人形劇を鑑賞する。

ウ PTA主催の読み聞かせ会

年に2回、各クラスの保護者5名程が各教室で読み聞かせをすることで、子供たちが絵本や物語に親しめるような機会を作り、絵本や物語への興味・関心を高められるようにする。



【童話会の先生による読み聞かせの様子】

(3) 園内の絵本室「ぞうさん文庫」の貸出し

当園の絵本室には、絵本や紙芝居等を約2000冊所蔵している。

子供たちは登園してから自分の好きな絵本を好きなだけ読める環境にある。年長になると、1冊の絵本をじっくりと読む姿が見られる。字が読めない子供は絵を見て楽しんでいる。

この絵本室の絵本は「ぞうさん文庫」という愛称で親しまれ、親子への貸出しも実施している。子供が家で読み聞かせをしてもらいたい絵本を、迎えに来た保護者と一緒に選ぶ姿が見られる。年長児は自分で読みたい絵本を選び、持ち帰ることも出来るようにしている。保護者からは「子供がどんな絵本を選ぶのか、楽しみだ」といった声も聞かれており、家庭でも本にふれる機会が増えることを願っている。

5 読み聞かせ活動についての成果

読書活動を教育活動の中に積極的に取り入れたことで、文字に対しての興味・関心が高くなっている。園では文字を教える活動は行っていないが、絵本を読んだり読んでもらったりして文字に触れることで、自然と文字を覚える子どもが増えてきた。

また、語彙数が増え、文字に対する関心が高まったり表現力が豊かになったりするなどの成果が見られた。



6 おわりに

幼稚園での読書活動の取組を振り返り、あらためて読み聞かせの大切さに気付くことができた。幼児期に本への興味・関心を持たせることは、日常生活の中で必要なコミュニケーション能力を高めるための語彙数が増えるとともに、豊かな心が育まれる。これからは家庭との連携をさらに深め、読書好きな子供の育成に取り組んでいきたい。